

令和2年7月5日～7日の梅雨前線の影響による 行入ダム洪水調節の効果について

【速報推計】

梅雨前線の影響により、5日19時から雨が降り始め7日5時までに累計158mmの降雨があり、5時53分には洪水量20m³/sに達したため洪水調節を開始しました。

その後も流入量は増加し、7日6時10分には最大流入量の31.9m³/sに達しました。その時点でのダムからの放流量は11.9m³/sであり、ダムに流れ込んだ水量の約63%にあたる、20m³/sをダムに貯めました。

その後、降雨及び流入量は次第に減少し、7日9時33分には洪水量の20m³/s以下となり洪水調節を終了しました。

総雨量は、246mm(5日19時～7日9時)で、最大時間雨量は、44mm/h(7日6時)でした。

今回の洪水調節により、下流河川(丹過橋地点)において、河川水位を約0.1m低減させたと推測しています。



※上記写真は今回の状況ではありません

問い合わせ先

大分県 土木建築部 河川課 ダム・海岸班

電話 (097)506-4595(直通)

担当: 山田、山村、藤崎

大分県 国東土木事務所

電話 (0978)72-1321

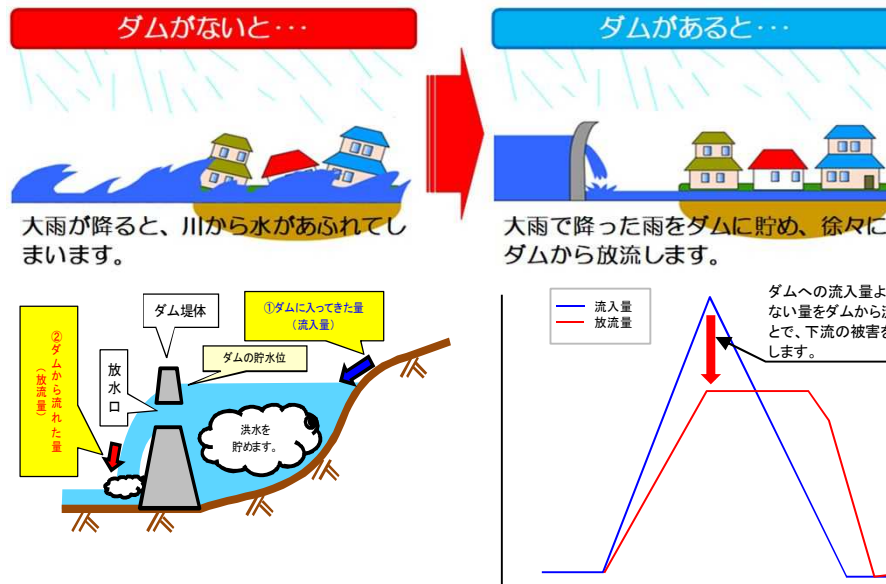
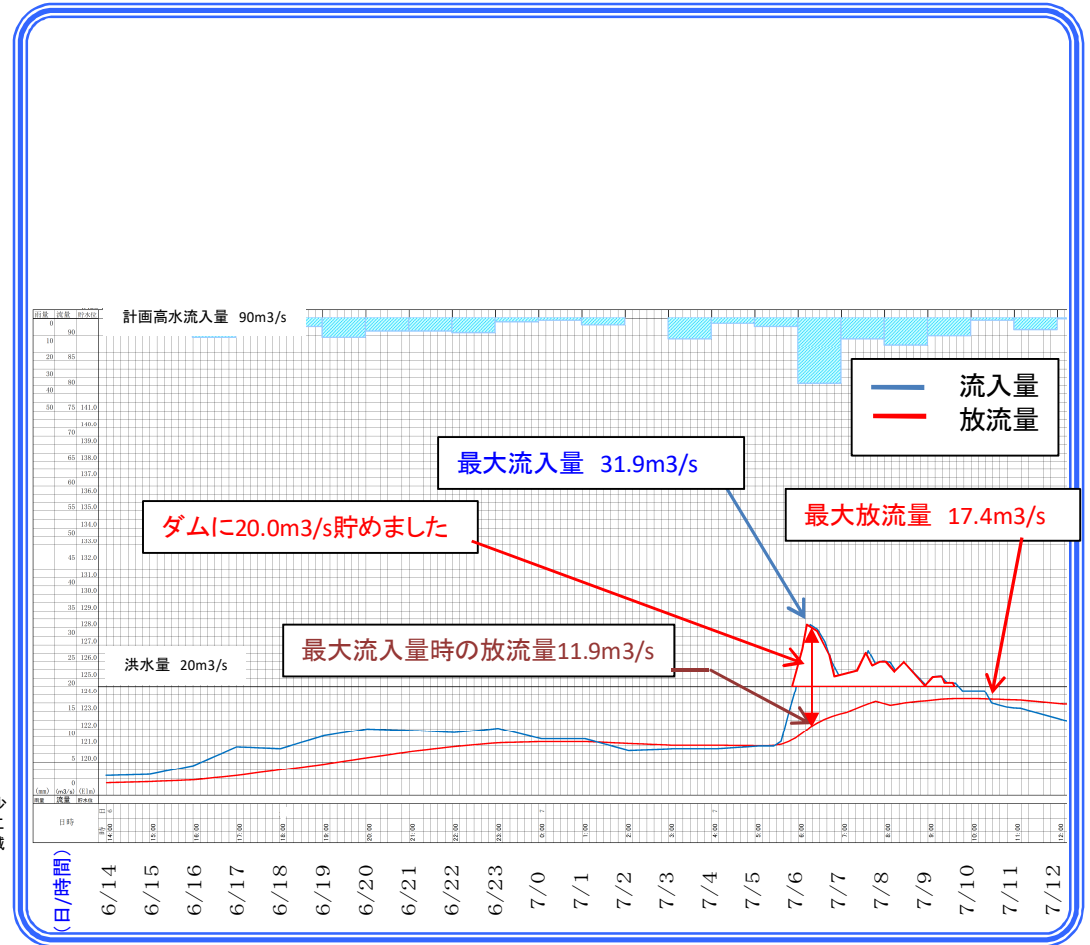
担当: 芝尾、首藤、小出

令和2年7月5日～7日の梅雨前線の影響による 行入ダム洪水調節の効果について

【 行入ダム位置図 】



【 洪水調節実績図(速報値) 】



最大流入量31.9m³/sのうち、20m³/sをダムに貯留し、11.9m³/sを放流

令和2年7月5日～7日の梅雨前線の影響による 行入ダム洪水調節の効果について

【 旦過橋地点(国東町)での洪水調節効果 】

